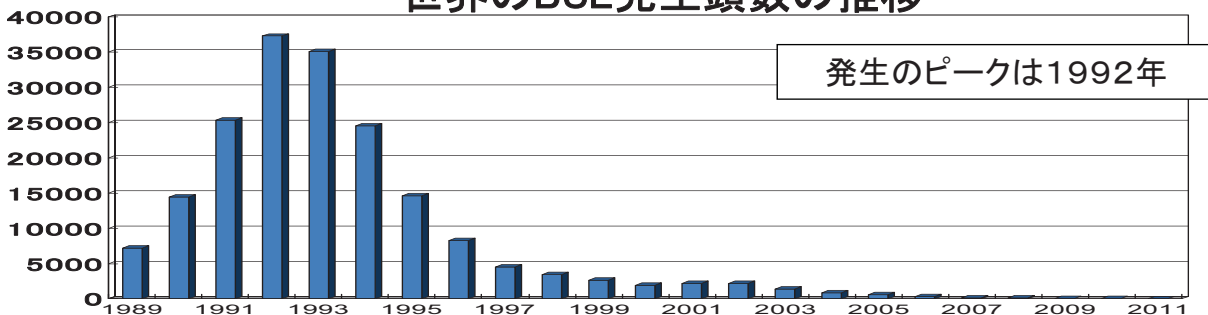


○海外におけるBSEの発生状況

○世界的にも同様のBSE対策が講じられ、各国のBSE発生頭数は近年、急激に減少している。

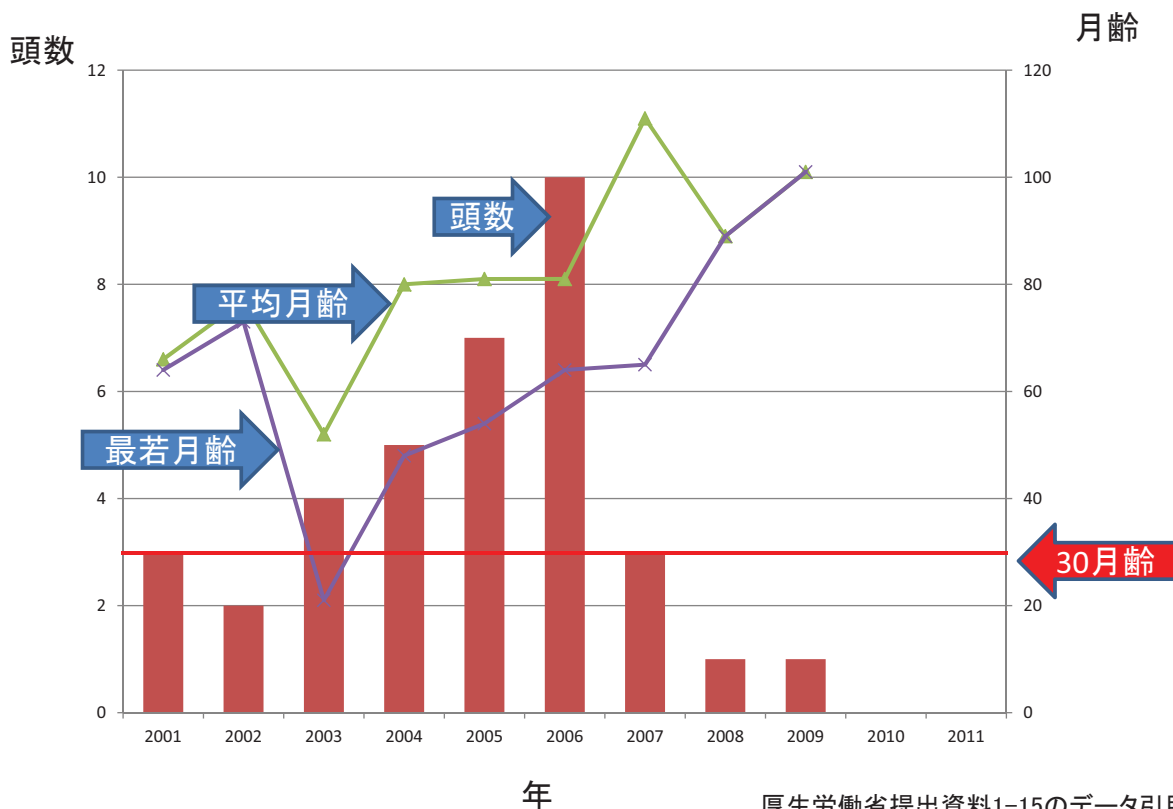
世界のBSE発生頭数の推移



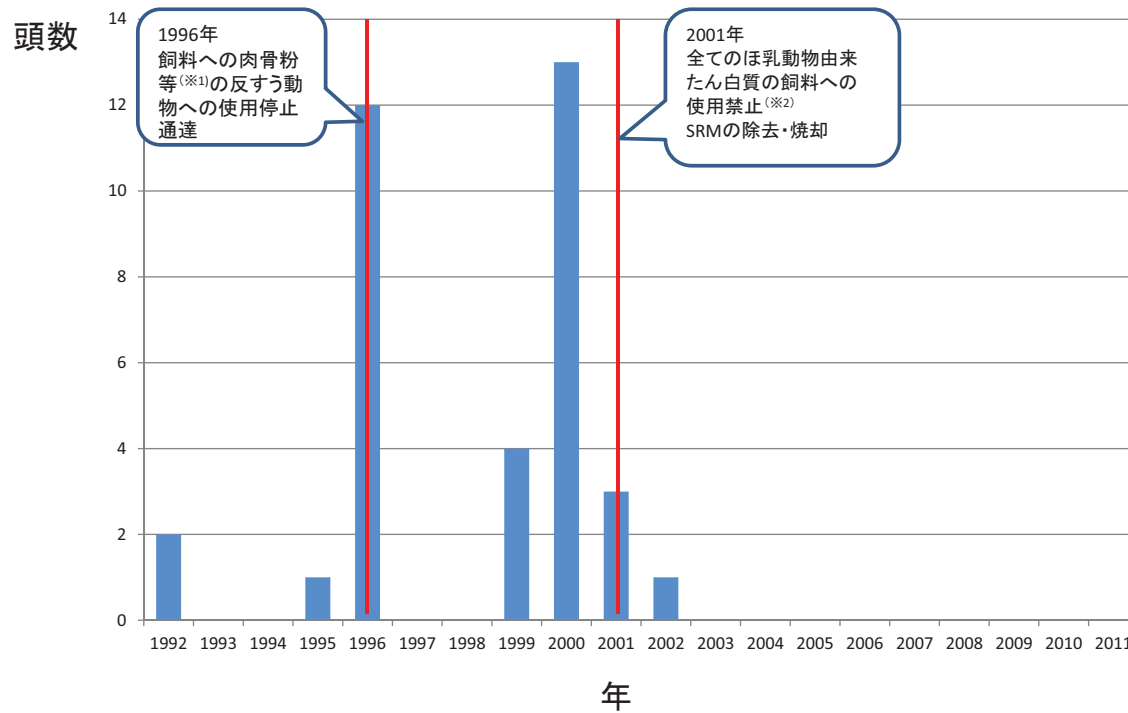
	1992	...	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	累計
全体	37,316	...	2,215	2,179	1,389	878	561	329	179	125	70	45	29	190,622
欧州 (英国、フランス及びオランダを除く)	36	...	716	769	616	469	293	189	95	74	46	26	17	4,837
英国	37,280	...	1,202	1,144	611	343	225	114	67	37	12	11	7	184,618
フランス	0	...	274	239	137	54	31	8	9	8	10	5	3	1,020
オランダ	0	...	20	24	19	6	3	2	2	1	0	2	1	88
アメリカ	0	...	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
カナダ	0	...	0	0	2 ^(※1)	1	1	5	3	4	1	1	1	20 ^(※2)
日本	0	...	3	2	4	5	7	10	3	1	1	0	0	36
イスラエル	0	...	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

資料は、2012年3月13日現在のOIEウェブサイト情報に基づく。
 ※1:うち1頭はアメリカで確認されたもの。 ※2:カナダの累計数は、輸入牛による発生を1頭、米国での最初の確認事例(2003年12月)1頭を含んでいる。

年別BSE摘発数と摘発月齢の推移(日本)



出生年別BSE発生状況(日本)



厚生労働省提出資料1-15のデータ引用

(※1) 反すう動物の組織を用いた飼料原料

(※2) その後、豚由来たん白質の製造に豚及び鶏用飼料の利用を再開し、現在は、全てのほ乳動物由来たん白質の反すう動物用飼料への使用、及び反すう動物由来たん白質のほ乳動物用飼料への使用が禁止されている。